

## アフガニスタンからの研修生が柏崎周辺地区を見学

北陸農政局柏崎周辺農業水利事業所 調査設計課 佐藤直樹

5月23日(月)に、JICAの技術協力の一環としてアフガニスタンから来日している研修生11名を対象に、柏崎周辺地区の現地見学会を実施しました。

研修生は本国では国や県で灌漑等にかかる行政官や技術者として活躍中で、ダムの役割や必要性、設計施工等について学ぶことを目的に地区内の後谷ダム、市野新田ダム及び藤井頭首工を見学しました。

### 後谷ダム

満水となった後谷ダムを見学しました。ゲートレスダムなので、洪水吐からの越流があり、これを放流を勘違いして「もっと洪水吐を下げるべきとの声があがったため、洪水吐の役割について丁寧に説明しました。



### 藤井頭首工

ダムで確保した水を田で利用するための頭首工を見学しました。研修生からは、「こんなに多量の水(最大取水量 $2.91 \text{ m}^3/\text{s}$ )が灌漑に使われているのか、本当に必要なのか、もっと節水すべきではないのか。」と驚きの声が上がられました。



### 市野新田ダム

市野新田ダムは、平成30年に試験湛水を予定している造成中のダムであり、施工中の基礎処理工、取水設備工、洪水吐工を見学しながらダムの概要や造成方法について説明しました。



研修生らは、柏崎周辺地区以外の地区も見学しており、地域毎の農業の特色に沿った農業水利施設に感銘を受けていました。

また、事業所で行われた地区の概要説明及び意見交換の際には、「日本からの技術協力で水をあまり使わない米の栽培方法を教えてもらったが、なぜ日本ではダムを造ってまで大量の水で灌漑をするのか」等の鋭い視点からの質問もありましたが、日本の農業の現状や稲作の特徴等を交えて説明することで納得していました。

事業所としても、それぞれ技術レベルの異なる研修生を対象に、しかも現地語の通訳を介して説明する技術とその難しさは普段の業務にもつながるものでもあり、実りある見学会となりました。